

大迫地方の伝説

蟹沢坊清水

上町から旭町へ向かって蟹沢坊橋（がんちゃぼぼし）をわたって、すぐ左手の方に、こんこんと清水が湧き出ている。この清水にまつわる話である。

昔、弘法大使さまがここを通りかかった時、大変に喉が乾いてしまった。そこで、近くの家立ち寄り、中で機織りをしていた人に、

「水を飲ませてください」

とお願いした。

機織りをしていた人は、大変忙しかったが、水を汲んで弘法大使さまに差し上げた。そしたら、弘法大使さまは、

「ここは蟹がいっぱいいる沢なので、蟹の沢に坊の字をつけて蟹沢坊と名付けよう」

と言って、持っていた杖でポンとついたところ、そこから清水が出るようになったという。

その蟹沢坊清水は、今もどんな暑い夏でも水が切れることはなく、とても冷たくおいしい水として、今でも近くの人々のお茶の水に使われている。 （「大迫の昔ばなし」）